

チャリティー御朱印の寺社へ

## 添え印を無償提供

東京の印章店

東京・高田馬場の印章店・吉報堂は、能登半島地震被災地支援のチャリティー御朱印を授与する全国の寺社を対象に、ゴム製の添え印を無償提供（送料込み）している。小嶋茂男社長は「経費分千円をただ寄付するよりも大きい支援に結び付く。形ある物があれば寺

社側も参拝者側も取り組みやすいと考えた」と語った。

同社は災害のたびに印鑑寄付などを行ってきた。きっかけは東日本大震災で「仕事が全てストップしたが、会社がつぶれてしまつたのなら被災者のために」と認め印数千本を寄贈した。

近年、行政主導の「はんこ廃止」による全国的な印章店の減少で御朱印の注文が集中し、寺社との付き合が増えた。また能登とは昨年に酒蔵11カ所の「御酒印」を制作した縁があった。地震発生を受け1月7日に取り組みを「インスタグラム」などで告知し、15寺社が応じた。地震や火災などの被災経験

のある寺社も少なくなく、宮城県大崎市の鹿島台神社もその一つ。

鈴木真由美欄宣は「東日本大震災の時に石川県の方が支援に来てくれた。報道を見て胸を痛めていたところで告知を知り『これはすぐに参加できる』とお願ひした。2月1日に始めて約50件を授与した。4月までは続けるつもり。初穂料は全

額、宮城県神社庁を通じて神社本庁の基金に寄付する」と話した。

小嶋社長は、被災寺社への御朱印の贈呈も検討している。「再建復興に取り掛かる段階で、多くの方に能登の寺社に足を

運んでもらえる動機付けに御朱印が役立つなら、2〜3万円くらいは負担するので問い合わせてほしい。はんこ文化も寺社も同じ苦境にあり知恵を絞りたい」と語った。

（武田智彦）



吉報堂提供の添え印（右上）を使って授与している鹿島台神社のチャリティー御朱印（同神社インスタグラムから）